

## 第2回

# 広島県ユネスコESD大賞発表会

日時 平成28(2016)年2月27日(土) 10時~12時  
会場 広島大学大学院教育学研究科 K201 講義室

主催 広島県ユネスコ連絡協議会  
共催 広島大学大学院教育学研究科 同ユネスコスクール委員会  
広島県ユネスコスクール連絡協議会  
協力 広島ユネスコ協会 宮島ユネスコ協会  
東広島ユネスコ協会 尾道ユネスコ協会  
因島ユネスコ協会 府中ユネスコ協会  
後援団体 広島県教育委員会 広島市教育委員会 東広島市教育委員会  
日本ユネスコ協会連盟 中国新聞社 中国放送  
助成 広島県共同募金会



広島県ユネスコ連絡協議会  
Prefectural Federation of  
UNESCO Associations in Hiroshima



広島ユネスコ協会 / 宮島ユネスコ協会 / 東広島ユネスコ協会  
Hiroshima Miyajima Higashi-Hiroshima  
尾道ユネスコ協会 / 因島ユネスコ協会 / 府中ユネスコ協会  
Onomichi Innoshima Fuchu



# 目 次

挨拶	1
講評	
プレゼンテーション	2
表彰校・団体の発表	
応募校・団体の活動内容	3
大崎上島町立東野小学校	
廿日市市立宮島小・中学校	
広島大学附属東雲中学校	
広島市立矢野西小学校	
広島市立清和中学校	
東広島市立入野小学校	
広島県立御調高等学校	
広島県国際理解教育研究協議会	
東広島市立西志和小学校	
熊野町立熊野中学校	
資料 広島県内ユネスコスクール加盟校	7
ESD 研究会・研修会情報	9
ユネスコ憲章（前文）	10

## ご 挨拶

広島県ユネスコ連絡協議会

会長 亀井 章

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから人の心の中に平和の砦を築かなければならない」。このことばで始まるユネスコ憲章は、第2次世界大戦が終わり、国際連合が創設された直後の1945年11月、戦争の深い反省から生まれたものです。

71年経った現在、世界はどうでしょう。地球の各地で人の生命が奪われ、自然は破壊され、核の脅威は衰えず、平和の砦が突き崩されようとしています。

国際平和と人類の福祉の促進を目的とする国際連合の専門機関としてユネスコ（国際連合教育科学文化機関）は、これまで教育、科学、文化を普及、促進することに重点がおかれてきましたが、今日のユネスコの役割は、教育・科学・文化のすべての領域で「平和の構築」と「公平で持続可能な開発」を目指し、健全な地球社会を実現することにあります。

このような使命を担うべく設けられた広島県ユネスコESD大賞のきっかけは、日本が国連で提唱した「国連ESD（持続可能な開発のための教育）の10年」（2005～2014）の最終年次を記念しての2014年度で、広島県ユネスコ連絡協議会の主催、広島県ユネスコスクール連絡協議会の共催で始まりました。

そして、今年2回目を迎えて強力な組織のお力添えを戴きました。広島大学大学院教育学研究科、同研究科ユネスコスクール委員会のご参画です。共催という名義のみにとどまらず当事業の普及、実務、さらには本日の会場ご提供など誠に有難く、改めて感謝申し上げます次第です。広島県共同募金会には今回もご協力いただき有難うございます。

日本のユネスコの民間運動が来年、70周年を迎えますが、広島県におけるユネスコ運動発祥の地は、広島大学です。1947年に東北大学の教授陣で始まったユネスコ運動に呼応して早期に学長以下広島大学の活動が始まっています。ですから、この度の本事業の協働は「本家帰り」の感頻りで、感慨深いものがあります。

## 表 彰 式

### <大 賞>

小・中学校等部門	廿日市市立宮島小・中学校
高等学校等部門	広島県立御調高校
社会部門	広島県国際理解研究協議会
映像グランプリ部門（学校部門）	熊野町立熊野中学校
教育学研究科賞	東広島市立入野小学校

## 講 評

審査委員長 河原富夫  
(和田副委員長代読)

## プレゼンテーション

小・中学校等部門	廿日市市立宮島小・中学校
高等学校等部門	広島県立御調高校
社会部門	広島県国際理解研究協議会
映像グランプリ部門（学校部門）	熊野町立熊野中学校
教育学研究科賞	東広島市立入野小学校

## 応募校・団体の活動内容（応募順）

### （１）小・中学校部門

**大崎上島町立東野小学校** 校長 平田修 担当 望月浩和

テーマ 大崎上島の将来を担う たくましく生きぬく子どもの育成

「大崎上島学」という教育活動全体を通じて、ふるさと大崎上島を学ぶこと  
によって地域の素晴らしさに気づかせ、地域を誇りに思う心を育てるとともに、  
地域の人材やネットワークとの強い絆を作り、相互連携して地域の発展に貢献  
する態度を育てている。

### **廿日市市立宮島小・中学校**

校長 安井誠一 担当 宮本章夫

テーマ 伝統文化に学ぶグローバルな視野を持つ児童生徒の育成

ESDの視点に立って、地域の伝統・文化を理解させるとともに国際的な視野を  
持つ児童・生徒の育成をねらって、多くの連携協力者を得て、学校を上げて国  
際理解教育、環境教育、地域遺産教育に取り組んでいる。特に、外国からの学  
校訪問が多いことを生かした世界遺産宮島の英語ボランティアガイド活動を通  
して、いろいろな国の文化に触れ多様性を受け入れる寛容な態度を育てている。

**広島大学附属東雲中学校** 校長 朝倉淳 担当 浦上千歳

テーマ 布を用いた制作活動を通してグローバルな資質の育成をめざす

「技術・家庭」の授業開発

技術・家庭科の家庭領域において、布の歴史や世界との関わりを学ぶことを  
意図した「布を用いた製作活動」（全８時間）を通じて、生徒に協働性を育む  
にとどまらず、自国及び他国の伝統・文化の違いを尊重しようとする態度や多  
様性の認識を育てることができている。（個人研究）

## 広島市立矢野西小学校 校長 須賀卓也 担当 森本泰史

テーマ 緑は人々の想いをつなぐもの

校内の恵まれた緑化環境を生かした環境教育を中心にして、安全教育、平和教育、道徳教育等を絡ませながら、多くの協力者を得て、学校全体で体系的に取り組んでいる。その成果として、児童に他者との関係性、社会との関係性及び自然環境との関係性を認識させるとともに、「関わり」や「つながり」を尊重する態度を育てている。

## 広島市立清和中学校 校長 大久保一久 担当 山下義孝

テーマ 安佐町地域のカタール国との交流 20～22年目の中で  
～地域に生きる中学生として、安佐町の伝統を継承しよう～

1994年に広島で開催されたアジア大会を契機に始まった公民館を中心とした地域活動である国際交流が、22年経った現在も安佐町地域とカタール国との間で継続されている。地域住民の高齢化に伴い、中学生が交流の担い手として引き受け、異文化理解を深め国際感覚を高めるために、関係者の協力を得て取り組んでいる。その成果として、地域の自然や文化に誇りが持て、平和友好を担う心情が培われている。

## 東広島市立入野小学校 校長 渡邊豪 担当 三井成宗

テーマ ふるさと入野の将来を考え集団の一員として行動する子供の育成  
ふるさと入野の将来を展望し、今の自分に何ができるか考え行動できる児童を育てるために、「教材のつながり」「人のつながり」「能力・態度のつながり」等の視点から教育活動を総合的に捉え直したESDカレンダーを基に、探究的な学習過程となる単元づくりや授業づくりを行っている。持続可能な社会づくりについて、「自然環境・エネルギー」「多文化（国際理解・地域理解）」「キャリア」の3領域を設定し、組織的・体系的に緻密に計画して実践している。

## (2) 高等学校等部門

広島県立御調高等学校 校長 倉田雄司 担当 豊田昇

テーマ 教科学習、総合的な学習の時間、地域での実践の3つを柱とした御調地域活性化プランの取組

生徒に育成したい力を国立教育政策研究所が例示した学習指導で重視する7つの能力・態度に対応させて、「課題解決のために悩み考え、多面的・総合的に捉える力」と「協働的に課題解決していく力」と設定したうえで、教科学習、総合的な学習の時間及び道の駅等の地域での実践に有機的な繋がりを持たせて実践している。しっかりとした校内推進体制により、地域社会の次世代の担い手となる生徒の主体的な活動を引き出し、御調町の活性化にも貢献している。

## (3) 社会部門

広島県国際理解教育研究協議会

代表 佐々木泰治（廿日市市立宮内小学校校長）

担当 中元徳寿（庄原市立東城中学校教諭）

テーマ 集まれ小さな外交官（国際理解）

この研究会は、県内教員のうち在外教育施設派遣経験者・希望者を主な会員として組織され、海外生活体験のある児童・生徒を対象にしたキャンプの実施を中心的な活動とし、これからの日本を支える国際的視野に立って行動できる人材を直接的に育成する事業を30年に亘って継続している。この活動は、参加した児童・生徒がそれぞれ所属する学校のESDの実践を支える人材として育てている面もあり、学校でのESD推進に資するものである。

#### (4) 映像グランプリ部門 (学校部門)

熊野町立熊野中学校 校長 荒谷茂樹 担当 前原由季

テーマ 地域の伝統と継承をめざして～筆をテーマに～

第1学年の筆作り体験と第2学年の職場体験を踏まえて、第3学年では、「筆の都」熊野に残っている唄「筆まつり」や「筆おどり」を和楽器を取り入れて発展・創作させた組曲「筆の都くまの」へ収斂するように計画された学校全体の取り組みを紹介している。前半はスライドショー的編集である。地域の関係機関とも連携し、生徒が伝統を継承する活動を通して地域の一員として誇りを持って国際社会で活躍することを願う実践である。

#### (5) 映像グランプリ部門 (社会部門) 応募なし

### 赤い羽根ESD支援プロジェクト

～ “持続可能な地域社会づくり” の実現を目指して ～

地域にあるすべての学校は、将来の地域社会を担う人材を育成しています。

しかしながら、家庭教育力や地域社会教育力が衰退している現在、各学校に過度の負担がかかっています。今こそ「地域の子どもは地域の大人が育てる」ことを実現する必要があります。これこそが、「持続可能な地域社会づくり」であり、地域福祉の向上につながるものです。

そこで、広島県共同募金会は、全国に先駆けて、各市町教育委員会と社会福祉協議会が連携し、地域の学校等と地域住民が参加する団体の活動を、“赤い羽根ESD支援プロジェクト”により支援していきます。



広島県共同募金会 は

“ESD” を応援しています。



広島県の共同募金運動は、**教育委員会**や**社会福祉協議会**等の協力のもと、**学校**や**地域**を主体とした「**持続可能な地域社会づくり**」を支援します。



## ユネスコスクール加盟校一覧(広島県)

平成27年3月現在

校種	設置	学 校 名
小	国	広島大学附属小学校
	広島市	広島市立権町小学校
	広島市	広島市立大林小学校
	広島市	広島市立畑賀小学校
	広島市	広島市立戸坂小学校
	福山市	福山市立内海小学校
	福山市	福山市立駅家西小学校
	大竹市	大竹市立栗谷小学校
	東広島市	東広島市立入野小学校
	廿日市市	廿日市市立宮島小学校
	海田町	海田町立海田東小学校
	熊野町	熊野町立熊野第一小学校
	熊野町	熊野町立熊野第二小学校
	熊野町	熊野町立熊野第三小学校
	熊野町	熊野町立熊野第四小学校
	北広島町	北広島町立新庄小学校
	尾道市	尾道市立山波小学校
	三次市	三次市立安田小学校
中	国	広島大学附属中学校
	県	県立広島中学校
	広島市	広島市立古田中学校
	廿日市市	廿日市市立宮島中学校
	江田島市	江田島市立三高中学校
	熊野町	熊野町立熊野中学校
	熊野町	熊野町立熊野東中学校
	私	山陽女学園中等部
	私	如水館中学校
	私	英数学館中学校

高	国	広島大学附属高等学校
	県	県立広島国泰寺高等学校
	県	県立呉三津田高等学校
	県	県立尾道北高等学校
	県	県立福山誠之館高等学校
	県	県立賀茂高等学校
	県	県立府中高等学校
	県	県立三次高等学校
	県	県立安古市高等学校
	県	県立大門高等学校
	県	県立広島井口高等学校
	県	県立安芸府中高等学校
	県	県立広島高等学校
	県	県立御調高等学校
	私	山陽女学園高等部
	私	如水館高等学校
	私	山陽高等学校
	私	広陵高等学校
	私	英数学館高等学校
特支	県	県立西条特別支援学校

小学校	18校
中学校	10校
高等学校	19校
特別支援学校	1校

計 48校

## 広島県内のESD関連研究会・研修会一覧

- 広島 ESD・ユネスコスクール研究会  
<http://esdunescohc.u-bi.ac.jp/>
  
- 広島県ユネスコ ESD 大賞  
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/unescohp/>
  
- 広島県ユネスコスクール連絡協議会  
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/esd0810pm.html>  
(事務局：広島市立広島井口高等学校)
  
- 東広島 ESD 研究会  
(事務局：広島県立賀茂高等学校)
  
- 広島大学大学院教育学研究科ユネスコスクール研究会  
(ASP/UnivNet)  
<http://esd.okayama-u.ac.jp/ASPUnivNet/hiroshima-u/>
  
- EPO ちゅうごく  
<http://epo-cg.jp>  
(事務局：環境省中国環境パートナーシップオフィス)
  
- 広島県ユネスコ連絡協議会  
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/unescohp/>

## UNESCO 憲章（前文）

この憲章の当事国政府は、この国民に代わって次のとおり宣言する。  
戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信の為に、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代りに、無知と偏見を通じて人種の不平等という教養を広めることによって可能にされた戦争であった。

文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつ、すべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神を持って、果たさなければならない神聖な義務である。

政府の政治的及び経済的取り決めのみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって、平和が失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かれなければならない。

これらの理由によって、この憲章の当事国は、すべての人に教育の十分で平和な機会が与えられ、客観的真理が拘束を受けずに研究され、かつ、思想と知識が自由に交換されるべきことを信じて、その国民の間における伝達の方法を用いることに一致し及び決意している。

その結果、当事国は、世界の諸人民の教育、科学及び文化上の関係を通じて、国際連合の設立の目的であり、かつ、その憲章が宣言している国際平和と人類の共通の福祉という目的を促進するために、ここに国際連合教育科学文化機関を創設する。